






タンク搭載自走スプレー WP-501S

<取扱説明書>


このたびは本製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。
この取扱説明書には安全に使用していただくための要点を記してありますので、ご使用前に必ずよくお読みになり正しくご使用ください。
お読みになった後はいつでも読める場所に保管してください。
また、本書を汚損したり、紛失した場合はお買い求めの販売店にご注文いただき、大切に保管してください。


本書に記載した  の表示のある注意事項や機械に貼られた  の表示のあるラベルは、人身事故等の危険が考えられる重要な項目です。よくお読みになり、必ずお守りください。なお、 の表示のあるラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い求めの販売店にご注文いただき必ず所定の位置にお貼りください。

本書に記載した  の表示のある注意事項や機械に貼られた  の表示のあるラベルでは、特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について、次のように3段階に分けて表示しています。

 危険・・・その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになります。

 警告・・・その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があります。

 注意・・・その警告文に従わなかった場合、けがを負う恐れがあります。

また、製品の故障や損傷につながる使い方に関する注意事項については取扱説明書、機械に貼られたラベルともに、 の表示を用いています。

目次

ページ

1 安全のために必ずお守りください	1
2 仕様	4
3 各部の名称及びラベル貼付位置	
3-1 各部の名称	5
3-2 ラベル貼付位置	6
4 梱包部品一覧	8
5 使用方法	
5-1 始業点検整備	9
5-2 エンジン始動・停止	10
5-3 走行	10
5-4 プームの操作	13
5-5 薬液散布	14
5-6 輸送	17
6 使用後のお手入れと保管	
6-1 使用後のお手入れ	18
6-2 長期保管	18
7 保守点検	
7-1 定期点検	19
7-2 点検、整備方法	20
8 故障と対策	24
9 アフターサービス	25

 株式会社 麻場

〒381-8530 長野県 長野市 北長池 1443-2

TEL 026(244)1317

URL: <http://www.asaba-mfg.com>

680022990-2020.04

1

《安全のために必ずお守りください》

全般

⚠ 注意

- ・次に該当する方は、この製品を使用しないでください。
 - ・酒気をおびた者
 - ・過労、病気、薬物（農薬を含む）の影響その他の理由により、正常な防除作業ができない者
 - ・妊娠中の者
 - ・15歳未満の者
 - ・負傷中の者、生理中の女性等農薬による影響を受けやすい者
- ・この製品を他人に貸与または譲渡する場合は必ず取扱説明書を添付し、よく読んでから使用するように指導してください。
- ・安全性を損なう恐れがありますので、改造しないでください。

農薬の取り扱い

⚠ 注意

- ・調合が適切でない薬液は、作物を傷めるだけでなく人体にも有害になる恐れがあります。薬液の調合の際は、農薬の使用上の注意をよく読み、正しく希釈してから使用してください。
- ・農薬は必ず専用の保管箱に鍵をかけて保管し、絶対に食品や食器とは一緒に保管しないでください。
- ・誤使用、誤飲の危険がありますので、農薬は絶対に別の容器に移し替えないでください。
- ・農薬の空容器は、散布液調合時に必ずよく洗い、薬品メーカーの指示に従って、その都度正しく処分してください。空容器を洗った水は薬害のない方法で処分してください。
- ・防除・除草用の農園芸用薬品の散布、散水用途以外には使用しないでください。

作業前

⚠ 危険

- ・火災の恐れがありますので、燃料補給時は次の項目を必ず守ってください。
 - ・燃料はエンジンを止めた状態で補給してください。
 - ・燃料補給時は火気に充分注意してください。
 - ・燃料補給時は高温部に燃料がかからないように補給してください。
 - ・燃料タンクの給油口一杯まで燃料を入れしないでください。
 - ・燃料がこぼれたらきれいに拭き取ってください。
 - ・燃料補給後、燃料タンクキャップは確実に閉めてください。

⚠ 注意

- ・作業前に接続部のパッキンに脱落のないこと、各ネジ部にゆるみがないこと、ホースに亀裂、摩耗、破損のないこと等、各部に異常のないことを確認してください。

作業中

⚠ 危険

- ・後進時は後方の障害物と本機の間には体がはさまれるとけがをしますので、充分注意してください。

⚠ 警告

- ・農薬の吸入や付着による事故を防ぐため、帽子、保護眼鏡、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護衣、長ズボン、ゴム長靴を着用し、皮膚が露出せず危険のない服装で作業をおこなってください。
- ・やけどのおそれがありますので、エンジンの高温部にはさわらないでください。
- ・ハウス内での使用は人体に悪影響を及ぼすおそれがありますので、よく換気をしてください。
- ・転倒し、けがをするおそれがありますので、軟弱な路地では走行しないでください。
- ・車体の重心位置は、薬液タンクが空のときは車体後方に、満タンときは車体前方に移動します。傾斜地では車体の重心位置が山側になるように走行してください。重心位置が谷側になると、車体の山側が浮き上がり、転倒する恐れがあります。
- ・薬液タンクが空の状態や傾斜地で、急加速や急減速を行うと、車体の前方や後方が浮き上がり、思わぬ事故につながる恐れがあります。走行クラッチレバーやアクセルレバーを操作する際は、余裕をもってゆっくりと操作してください。
- ・転倒によるけがのおそれがありますので、傾斜地では必ず等高線に対し直角方向に走行してください。
- ・転倒によるけがのおそれがありますので、傾斜地では絶対に旋回しないでください。

⚠ 注意

- ・作業中、作業後にめまい、頭痛を生じた場合は気分が少しでも悪くなった場合は直ちに医師の診察を受けてください。
- ・各ホースの温度は40℃以下で使用してください。40℃より高くなりますと性能が低下します。
- ・水道、河川、池、沼などを汚染しないように、また、人体や散布対象物以外のものにかからないよう風や周囲の状況に充分注意して作業をおこなってください。
- ・エンジンを始動するときは突然の走行や噴霧を防ぐため、必ず走行クラッチレバーとポンプクラッチレバーを共に『切』にしてください。
- ・回転部に巻き込まれてけがをするおそれがありますので、保護カバーを外した状態では絶対に使用しないでください。
- ・回転中のプーリ、ベルト等に触れないでください。触れると巻き込まれてけがをします。
- ・公道での走行は危険ですので、しないでください。
- ・ブームを人などにぶつける危険がありますので、移動走行は必ずブームを収納した状態でおこなってください。
- ・ブームを人などにぶつける危険がありますので、ブームを伸ばした状態での操舵、旋回は、サイドクラッチレバーを機体後方へ軽く引いたり戻したりの繰り返しにより、徐々にこなしてください。
- ・ブームを人などにぶつける危険がありますので、ブームの操作はまわりに人などの障害物がないことを確認してから行ってください。
- ・走行中や薬液散布作業中に何らかの理由により直ちに走行、薬液散布を停止したいときは、非常停止ボタンを押して、エンジンを停止してから走行クラッチレバー、ポンプクラッチレバーを『切』にしてください。急停止の際には、車体の前方や後方が浮き上がる恐れがありますので充分に注意してください。
- ・前進、後進、旋回をする際、周囲の人に合図をし、安全を充分確かめてください。
- ・あぜ等の障害物を乗り越える時やトラックへの積み降ろし時は低速で走行してください。
- ・高速での旋回は大変危険ですので、旋回は必ず低速で行ってください。
- ・薬液タンクが満水状態のとき、傾斜地などタンクが傾いた状態になると薬液が薬液タンクキャップのネジ部からこぼれることがありますので注意してください。
- ・駐車する時は車体がひとりでに動き出すと危険ですので、平坦で堅固な場所に駐車してください。
- ・作業中に噴口部を清掃または交換する場合は顔面などに薬液がかかる恐れがありますので、動噴を停止し、吐出コックを閉じ、噴口を開放状態にしてから噴口部を取り外しておこなってください。

作業後

⚠ 注意

- 作業後は手足はもちろん、全身を石鹸でよく洗うとともに目の水洗いとうがいをしてください。また作業期間中は衣服を毎日取り替えてください。
- 動噴を止めても動噴～ホース内に圧力が残っていることがあります。この状態で接続部を外すと薬液が噴き出す恐れがありますので、接続部を外す前に周囲の状況を確認し、吐出コックを閉じてから噴口を吐出状態にして動噴～ホース内の圧力を抜き、取り外してください。
- 余った薬液及び機械の洗浄水は、河川、水源池、池、沼、下水等に流入して被害を及ぼさないよう、薬害のない方法で処分してください。
- 前回使用した薬液がタンク、ホース、ノズルなどの内部に残っていると薬害をおこす危険性があります。特に除草剤散布に使用した後、一般防除作業に使用する場合は残っている薬液を十分に洗い流してください。
- 必ずブームを収納した状態で保管してください。
- 保管時は必ず走行クラッチ、ポンプクラッチを共に切り、風雨や直射日光の当たらない平坦なところで保管してください。

トラックへの積み降ろし

⚠ 警告

転落によるけがの恐れがありますので、下記の事項を守ってください。

- アルミブリッジは800kgf以上の荷重に耐えられる、トラック荷台高さの4倍以上の長さのものを使用してください。
- 必ず薬液タンクを空にしてから積み下ろしを行なってください。
- トラック荷台上では薬液を薬液タンクに充填しないでください。
- 車体の重心位置が上側になるように、後進で上り、前進で下ってください。
- 低速（前進1速、又は後進1速）で走行してください。
- アルミブリッジ上ではサイドクラッチを切らないでください。

2

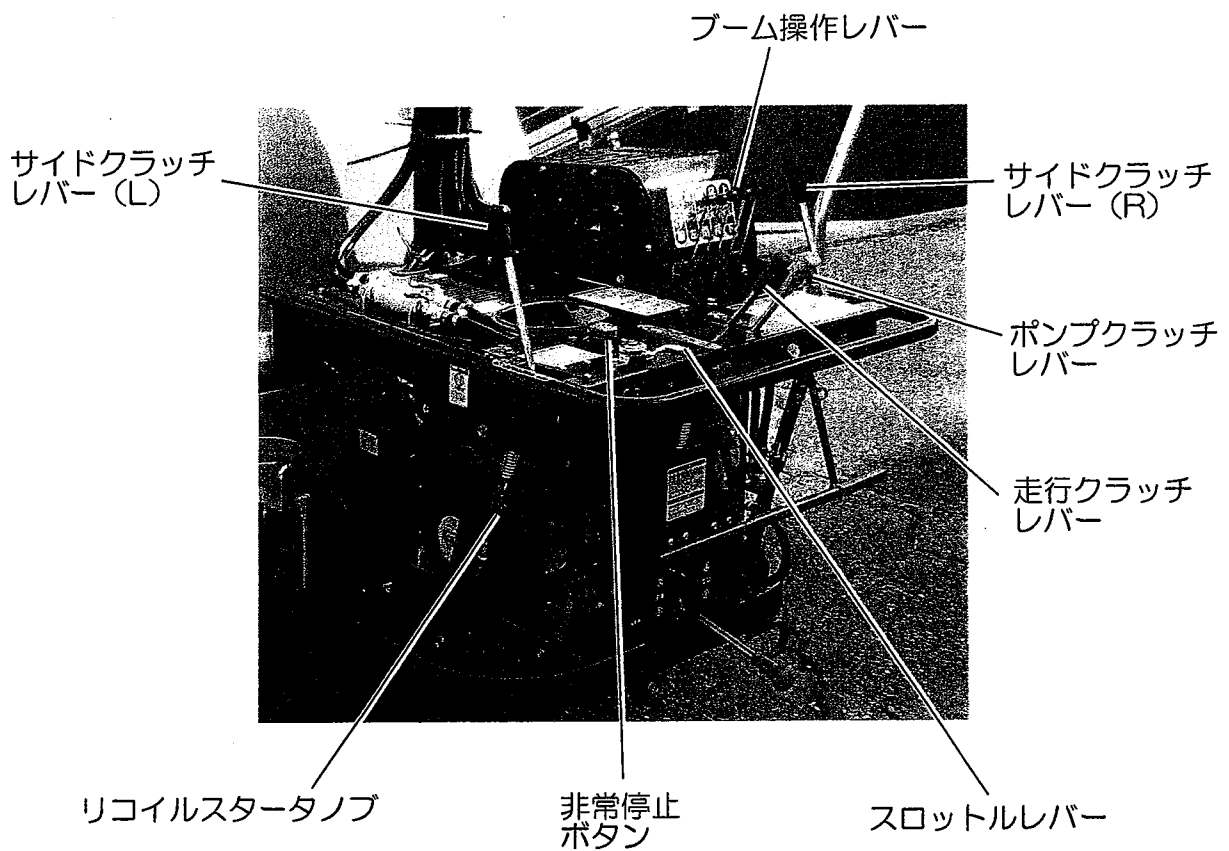
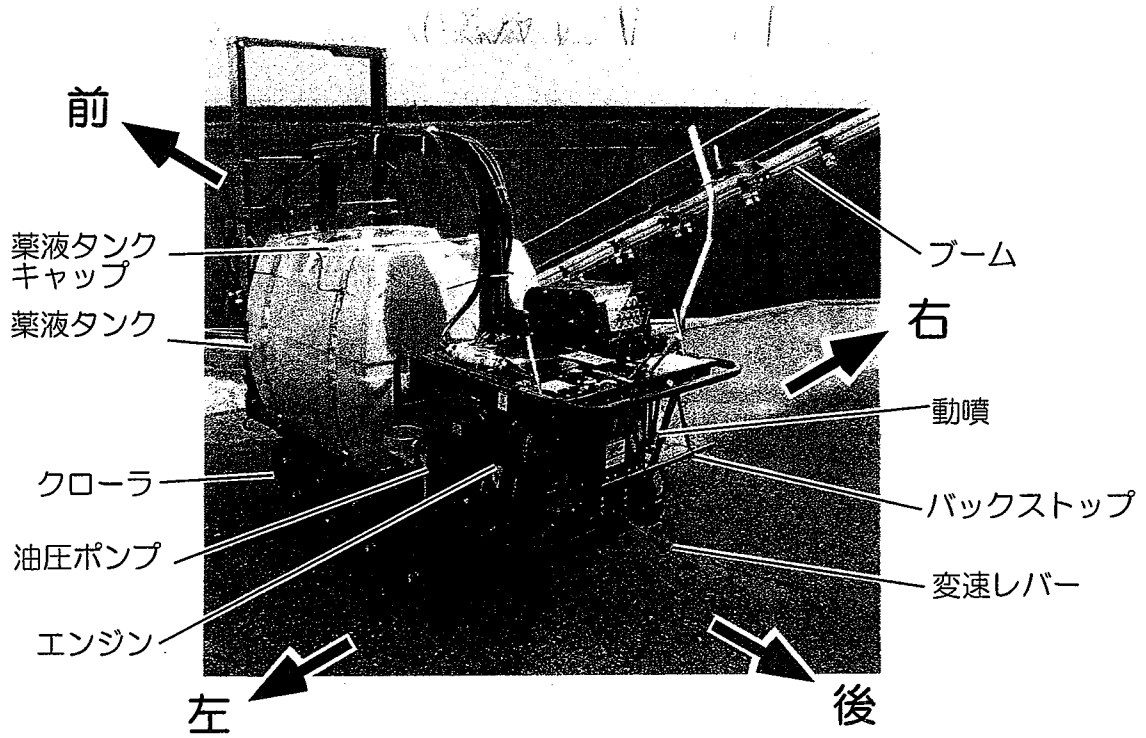
仕様

名称	タンク搭載自走スプレー		
型式	WP-501S		
寸法	全長	3800mm	
	全幅	1250mm	
	全高	2400mm	
本機乾燥質量	510kg		
クローラ	幅	200mm	
	外幅	750mm	
	トレッド	550mm	
	接地長	900mm	
	平均接地圧	0.028MPa(0.28kgf/cm ²) (タンク満タン時)	
走行クラッチ方式	ベルトテンション方式		
ブレーキ方式	内拡式ブレーキ		
旋回方式	爪ロック式		
変速方式	有段変速方式 (前後進各2速)		
走行速度	前進または後進1速	1.9km/h	
	前進または後進2速	3.4km/h	
エンジン	メーカー	三菱重工エンジンシステム(株)	
	型式	GB300LN	
	最大出力	7.3kW (10.0PS)	
	連続定格出力	5.5kW (7.5PS)	
	始動方式	リコイル式	
	燃料タンク容量	6.0ℓ	
	点火プラグ	NGK BP5ES	
動噴	形式	高圧型ピストン式ポンプ	
	型式	AF-55-SW	
	回転数	1000rpm	
	吸水量	56ℓ/min	
	最高圧力	2.5MPa	
薬液タンク	容量	500ℓ	
薬液攪拌	方式	噴流攪拌方式	
	吐出量	2.1ℓ/min (2.5MPa時)	
ポーシング	ネジサイズ	G3/8	
ブーム	油圧	上下移動	950mm (地上高450~1400)
		先端上下	+30° ~ -2°
		左右方向旋回	180°
		伸縮	3100mm (ブーム末端位置4550~7650)
		収納	右
	噴口	形式	首振自在ノズル
		噴板型式	広角噴板No2
		噴頭数	24個
		吐出量	1.9ℓ/min (1.5MPa時/1頭当)
		噴口ピッチ	300mm
		散布幅	機体中心より4450~7550mm
		その他	スライド連動開閉機能 (元ブーム)
		静止転倒角度 (ブーム収納時) (空/満タン)	右
	左	28° / 21°	
	前	32° / 20°	
	後	27° / 22°	

※ブーム伸展時、伸展側への左右静止転倒角度は10° 以下。

3 各部の名称及びラベル貼付位置

3-1 各部の名称



3-2 ラベル貼付位置

- ・ラベルはいつもきれいにして傷つけないようにしてください。
- ・ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い求めの販売店にラベルの品番と共に注文し、新しいラベルに貼り替えてください。
- ・新しいラベルを貼るときは貼る面の汚れをふき取り、乾いた状態にして元の位置に貼ってください。

①692004110

注意
ブームの取り扱いに関する注意
<p>ブームを人などにつける危険がありますので、下記の事項を必ず守ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動走行は必ずブームを収納した状態でおこなってください。 ・ブームを伸ばした状態での操舵、旋回はサイドクラッチレバーを機体後方へ軽く引いたり戻したりの繰り返しにより徐々に行ってください。 ・ブームの操作はまわりに人などの障害物がないことを確認してからおこなってください。 ・保管は必ずブームを収納した状態でおこなってください。

②692004060

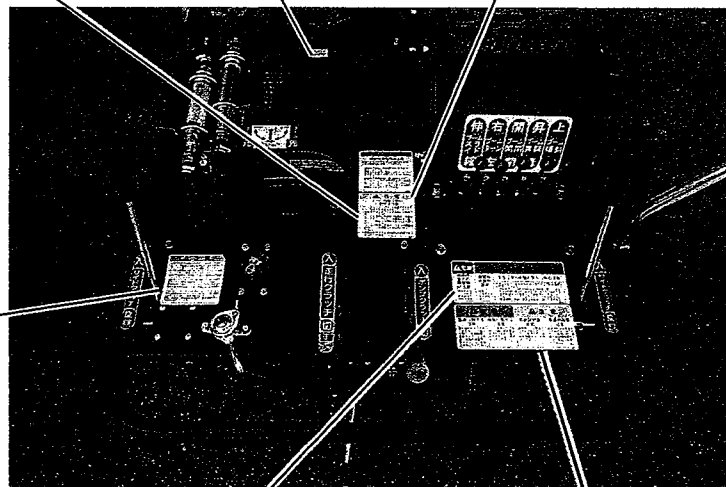
警告	高温注意
さわるとやけどをする恐れがあります。	
692004060	

③692008290

警告
傾斜地運転時の注意
<p>転倒によるけがのおそれがありますので、下記の事項を必ず守ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傾斜地では必ず等高線に対し直角方向に走行してください。 ・傾斜地では絶対に旋回しないでください。 ・車体重心位置が山側になるように走行してください。 ・傾斜地での停止は、極力避けるようにしてください。やむを得ず停止する場合は走行クラッチレバーをゆっくり操作してください。また、なるべく早く平坦地に移動するようにしてください。

④692004180

注意
<p>公道での走行は危険ですので、しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エンジンを始動する時は必ず走行クラッチとポンプクラッチが切れていることを確認してください。 ・おぼろ等の障害物を乗り越えるときはトラックへの積み下ろし時は、低速で走行してください。 ・高速での旋回は大変危険ですので、旋回は必ず低速でおこなってください。 ・回転中のブリー、ベルト等に触れないでください。 ・駐車は平坦で堅固な場所でおこなってください。 ・保管時は必ず走行クラッチ、ポンプクラッチを切り風筒や直射日光のあたらない平坦なところで保管してください。 ・水道、河川、池、沼などを汚染しないように、また散布対象物以外のものにかからないよう、風や周囲の状況に充分注意して散布作業をおこなってください。 ・防除、除草用の農園薬製品の散布、散水用途以外には使用しないでください。

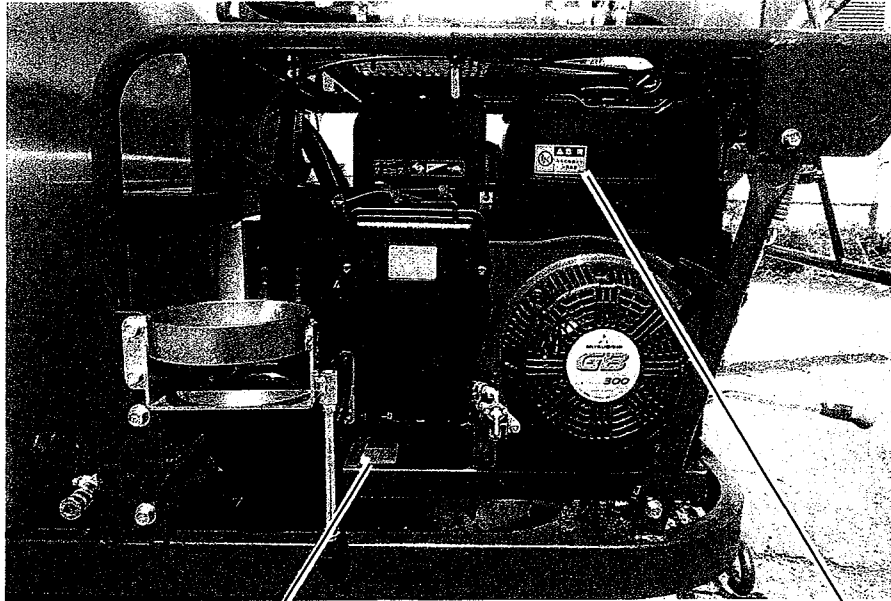


⑤692004290

危険	警告
後進時、後方の障害物に注意	トラックへの積み下ろし時の注意
<p>体がはさまれ、けがをするおそれがあります。</p>	<p>転落によるけがのおそれがありますので下記の事項を必ず守ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルミブリッジは800kg以上の荷重に耐えられる、トラックの荷台高さの4倍以上の長さのものを使用すること。 ・必ず薬液タンクを空にして積み下ろしすること。 ・アルミブリッジ上ではサイドクラッチを切らないこと。 ・最低速度（前進1速または後進1速）で走行すること。

⑥692004050

警告	注意
服装に関する注意	取扱説明書必読
<p>薬中毒のおそれがありますので、作業時は帽子、保護眼鏡、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護衣、長ズボン、ゴム長靴を着用してください。</p>	<p>誤使用による事故のおそれがありますので、ご使用前に取扱説明書をよくお読みください。</p>
警告	注意
喚気に関する注意	農薬の取扱注意
<p>ハウス内等でのご使用は人体に悪影響を及ぼすおそれがありますので、よく喚気をしてください。</p>	<p>誤使用による事故のおそれがありますので、ご使用前に農薬の取扱説明書をよくお読みください。</p>




⑦692004190

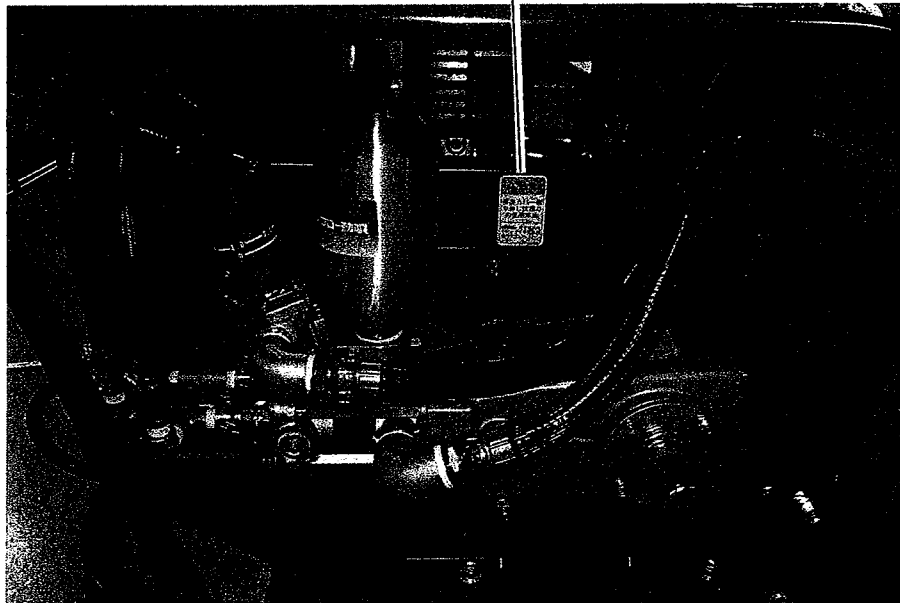
⚠ 警告
回転部に 注意
けがをするおそれ ありますので、エン ジン稼動中はこの付 近に手を入れないで ください。
692004190

⑧692004100

⚠ 注意
保護カバー取 り外し状態 での使用禁止
回転部に巻き込まれ てけがをする恐れが あります。
692004100

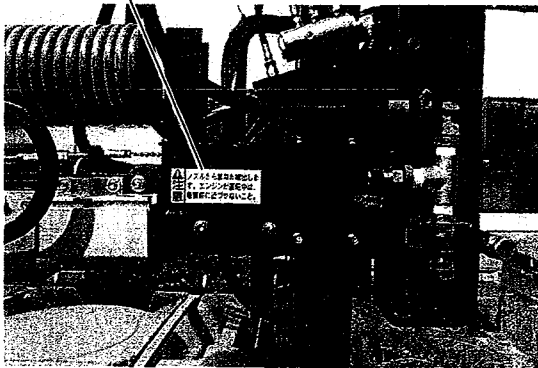
⑨692008310

⚠ 危険

火災の危険あり 火気厳禁



⑩177236

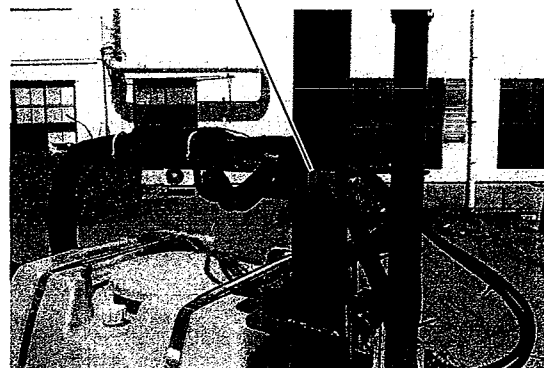
注意 ノズルから薬液が噴出します。エンジンが運転中は、噴頭部に近づかないこと。
177236



⑪692008320

警告
切断する恐れあり
手を入れないこと

※反対側にも貼付



4

梱包部品一覧

梱包されている部品が全部そろっているかどうか、輸送中の事故で破損している部品がないかを確認してください。
もし、欠品または破損などがありましたら、製品名、型式、製造番号と共にお買い求めの販売店にお知らせください。

品名	数量
本体	1
取扱説明書（本書）	1
取扱説明書（動噴用）	1
取扱説明書（エンジン用）	1
十字ドライバ	1
ボックススパナ	1

5

使用方法

5-1 始業点検整備（作業前の点検整備）

事故や故障を未然に防ぐため、使用する前に欠かさず下記点検整備をおこなってください。

始業点検により不具合が発見された場合には、『7-2点検、整備方法』該当項目に沿って直ちに補修などの処置を施すか、お買い求めの販売店にご相談ください。

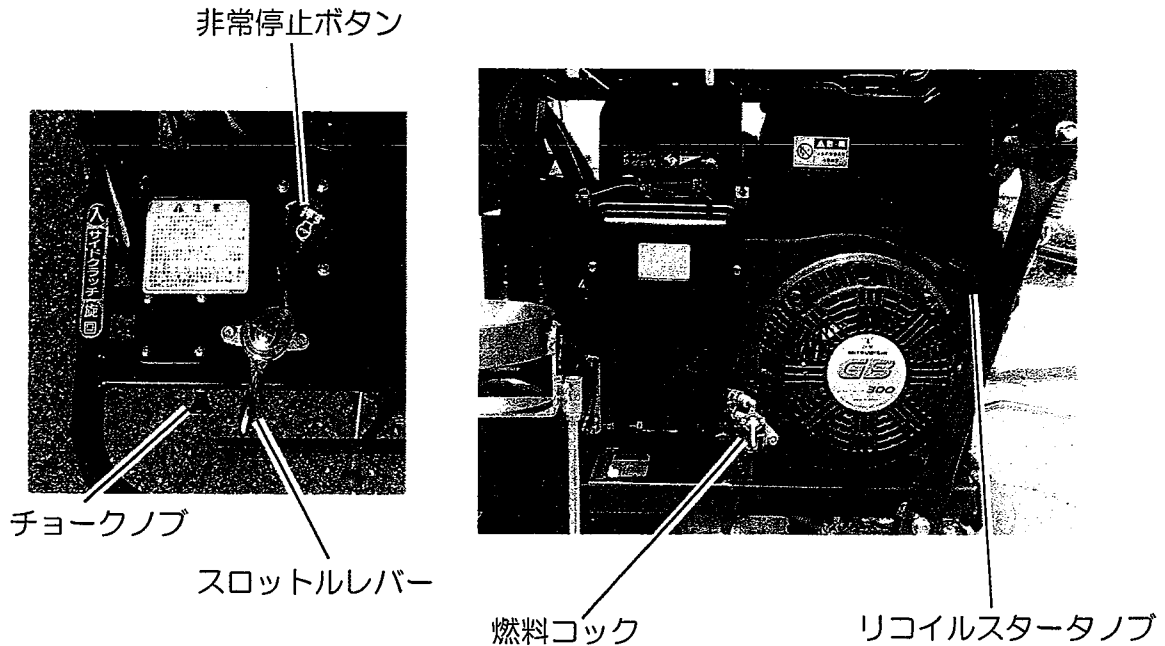
＜始業点検項目一覧表＞

点検箇所	点検内容
前回の異常箇所	前回の作業で気付いた点が修理できているか。
燃料	漏れはないか。 充分に入っているか。
エンジン	オイル漏れはないか。 オイルは規定量入っているか。 エアクリーナにほこり等が詰まっていないか。 エアクリーナの損傷はないか。 リコイルスタータ周辺部の異常はないか。 マフラ周辺部の異常はないか。 排気状態は正常か。 正常に停止できるか。 (その他エンジンの説明書を参照すること。)
ミッション	オイル漏れはないか。
クローラ	異常な摩耗、亀裂はないか。 異物の噛み込みはないか。 張り具合は適正か。
スロットルレバー	滑らかにエンジン回転が上下するか。
変速レバー	レバー操作して正常に変速できるか。
走行クラッチレバー	作動具合は適正か。
サイドクラッチレバー	作動具合は適正か。
動噴クラッチレバー	作動具合は適正か。
各部ワイヤの点検	損傷はないか。
油圧ポンプ	作動油は規定量入っているか。 作動油の漏れはないか。
油圧配管	ホースに傷や割れ、漏れはないか。
動噴	オイルは規定量入っているか。 (その他ポンプの説明書を参照すること。)
薬液タンク	漏れはないか。
吸水ストレーナ	ゴミ等の詰りはないか。
薬液配管	ホース、噴霧管に傷や割れ、漏れはないか。
ノズル	噴板に詰りはないか。
ブーム	伸縮用チェーンに損傷はないか。 油圧シリンダ、油圧モータの動作は正常か。
各部の締め付け	緩みはないか。

5-2 エンジン始動・停止

◎エンジン始動

- ①変速レバーをニュートラル位置にし、走行クラッチレバー及びポンプクラッチレバーを共に『切』にします。
- ②燃料コックを開きます。
- ③スロットルレバーを中程度にセットします。
- ④非常停止ボタンを押しながら『入』まで回します。
- ⑤チョークノブを引きます。（エンジンが充分暖まっている時はこの操作は不要です。）
- ⑥リコイルスタータノブを勢いよく引きます。
- ⑦エンジンがかかったらチョークノブを徐々に戻します。
- ⑧暖気運転を2～3分間おこなってください。



⚠警告 ・やけどのおそれがありますので、エンジンの高温部にはさわらないでください。

⚠注意 ・エンジンを始動するときは突然の走行や噴霧を防ぐため、必ず走行クラッチレバーとポンプクラッチレバーを共に『切』にしてください。
・回転中のプーリ、ベルト等に触れないでください。触れると巻き込まれてけがをします。

◎エンジン停止

- ①スロットルレバーを『低』にします。
- ②エンジン非常停止ボタンを押すと『切』の状態になりエンジンが止まります。

5-3 走行

◎発進

- ①走行クラッチレバーの『切』を確認します。
- ②変速レバーを希望する位置に確実に入れます。
- ③スロットルレバーを中程度にします。
- ④走行クラッチレバーを『入』側にゆっくりと倒して発進します。
- ⑤速度の微調整はスロットルレバーの操作で行ってください。

⚠危険 ・後進時は後方の障害物と本機の間には体がはさまれるとけがをしますので、充分注意してください。

⚠警告

- 回転部に巻き込まれてけがをすることがありますので、保護カバーを外した状態では絶対に使用しないでください。
- 公道での走行は危険ですので、しないでください。

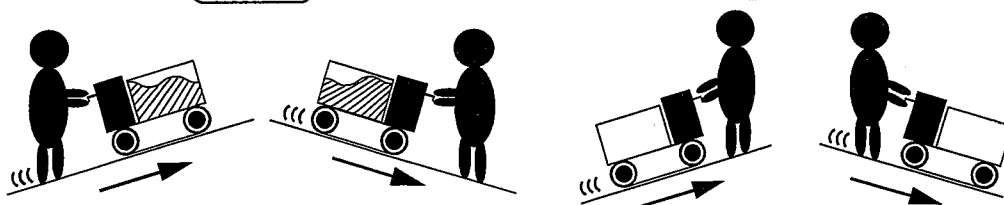
◎走行

⚠警告

- 転倒によるけがのおそれがありますので、軟弱な路地では走行しないでください。
- 転倒によるけがのおそれがありますので、傾斜地では必ず等高線に対し直角方向に走行してください。
- 車体の重心位置は、薬液タンクが空のときは車体後方に、満タンのときは車体前方に移動します。傾斜地では車体の重心位置が山側になるように走行してください。重心位置が谷側になると、車体の山側が浮き上がり、転倒する恐れがあります。

タンク満

タンク空



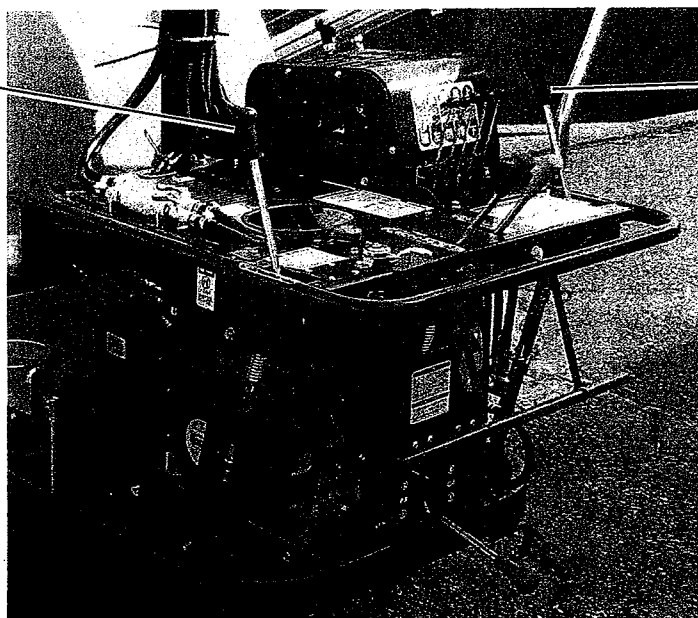
⚠注意

- 前進、後進をする際、周囲の人に合図をし、安全を充分確かめてください。
- あげ等の障害物を乗り越える時やトラックへの積み降ろし時は低速で走行してください。
- 走行中や薬液散布作業中に何らかの理由により直ちに走行、薬液散布を停止したいときは、非常停止ボタンを押して、エンジンを停止してから走行クラッチレバー、ポンプクラッチレバーを『切』にしてください。急停止の際には、車体の前方や後方が浮き上がる恐れがありますので十分に注意してください。
- ブームを人などにぶつける危険がありますので、移動走行は必ずブームを収納した状態で行ってください。

◎操舵、旋回

- ① 曲がりたい方向のサイドクラッチレバーを握ることにより操舵、旋回できます。
- ② 旋回半径は走行速度、薬液積載量、路面の状態により変化します。

サイドクラッチレバー (L)



サイドクラッチレバー (R)

⚠警告 • 転倒によるけがのおそれがありますので、傾斜地では絶対に旋回しないでください。

⚠注意 • 旋回をする際、周囲の人に合図をし、安全を充分確かめてください。
• 高速での旋回は大変危険ですので、旋回は必ず低速で行ってください。
• ブームを人などにぶつける危険がありますので、ブームを伸ばした状態での操舵、旋回は、サイドクラッチレバーを機体後方へ軽く引いたり戻したりの繰り返しにより、徐々におこなってください。

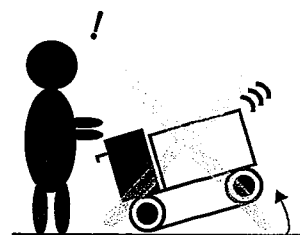
◎走行停止、駐車

- ①変速レバーをゆっくりと『N』の位置に戻します。
- ②走行クラッチレバーを『切』に戻します。
- ③スロットルレバーを『低』に下げます。

⚠注意 • 駐車する時は車体がひとりでに動き出すと危険ですので、平坦で堅固な場所に駐車してください。

◎変速レバーおよび走行クラッチレバー操作時の注意点

⚠警告 • 薬液タンクが空の状態や傾斜地で、急加速や急減速を行うと、車体の前方や後方が浮き上がり、思わぬ事故につながる恐れがあります。変速レバーを操作する際は、余裕をもってゆっくりと操作してください。
• 変速レバーが前進または後進の状態では走行クラッチレバーを操作すると、急発進や急停止し、車体が浮き上がる恐れがあるため、大変危険です。また、トランスミッションが故障する原因にもなります。走行クラッチレバーは、必ず変速レバーを『N』の位置に戻してから操作してください。



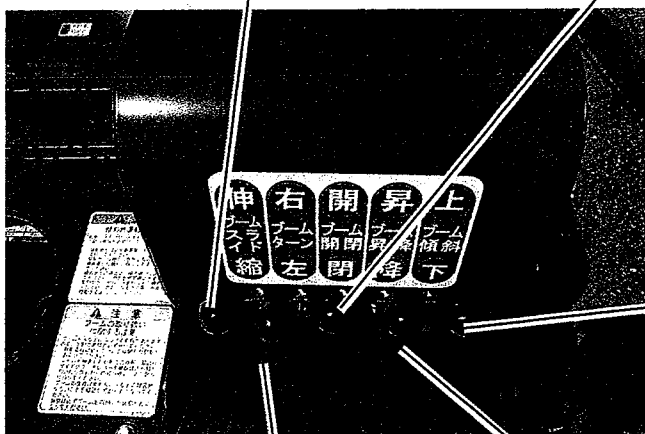
5-4 ブームの操作

◎ブーム操作レバーについて

各種ブーム操作レバーの作用は下表の通りで、レバーを操作している間だけ作用します。操作レバーは、エンジンがかかっている時だけ操作するようにしてください。

レバー名称	伸縮レバー	
作用図		
操作	上	下
作用	ブームが伸びる	ブームが縮む

レバー名称	開閉レバー	
作用図		
操作	上	下
作用	ブームを使用位置へ起こす	ブームを収納位置にたたむ



レバー名称	先端上下レバー	
作用図		
操作	上	下
作用	ブーム先端が上に移動する	ブーム先端が下に移動する

レバー名称	旋回レバー	
作用図		
操作	上	下
作用	ブームが右に旋回する	ブームが左に旋回する

レバー名称	上下レバー	
作用図		
操作	上	下
作用	ブーム全体が上に移動する	ブーム全体が下に移動する

5-5 薬液散布

5-5-1) ブームの展開

エンジンは稼働状態で、走行は停止状態で下記の操作を行ってください。

- ①「先端上下レバー」、及び「上下レバー」を操作し、収納状態のブームをブーム収納金具から約20cm程上昇させます。
- ②「開閉レバー」を操作し、ブームを本機右前方に旋回させます。
- ③「上下レバー」を操作し、ブームを噴霧作業を行いたい高さにします。
- ④「先端上下レバー」を操作し、ブームを地面と平行にします。ブームを下げた状態で作業を行う場合は、走行地面の様子をよく確認し、軟弱であったり凹凸がある場合は、「先端上下レバー」でブーム先端を少し上げた状態にすると、地面との接触を避けることができます。
- ⑤本機左側で散布作業を行うときは、「旋回レバー」を操作し、ブームを左側に移動します。
- ⑥散布幅に合わせて、「伸縮レバー」でブームを伸ばします。第1ブームの各噴口のcockは、ブームの伸縮に合わせて開閉します。

ブーム収納金具



重要

- ・ブームの旋回は、必ずブームを最も縮めた状態で行ってください。
- ・ブームの旋回は、ブームが止まるまで行ってください。
- ・散布作業以外（移動や駐車）の時は、必ずブームを収納状態にしてください。
- ・エンジンが稼働していない時は各種操作レバーを触らないでください。

注意

- ・ブームを操作する時は、周囲の状況を良く確認してから行ってください。

5-5-2) ブームの収納

エンジンは稼働状態で、走行は停止状態で下記の操作を行ってください。

- ①「伸縮レバー」を操作し、ブームを縮めます。
- ②ブームを本機右側にします。
- ③「上下レバー」を操作し、ブーム全体をブーム全体が最も下がった位置から30cm程度上に上げます。
- ④「先端上下レバー」を操作し、ブーム先端を最も上まで上げます。
- ⑤「開閉レバー」を操作し、ブームを本機側へ旋回させます。
- ⑥ブーム収納金具の位置まで旋回が終了したら、「上下レバー」を操作し、ブーム全体を下に下げます。
- ⑦「先端上下レバー」を操作し、ブーム先端を下げブーム収納金具に降ろします。

重要

- ・ブームをブーム収納金具に降ろすとき、降ろしすぎるとブーム、及び収納金具を破損する恐れがあります。必要以上に降ろさないでください。

5-5-3) 薬液充填

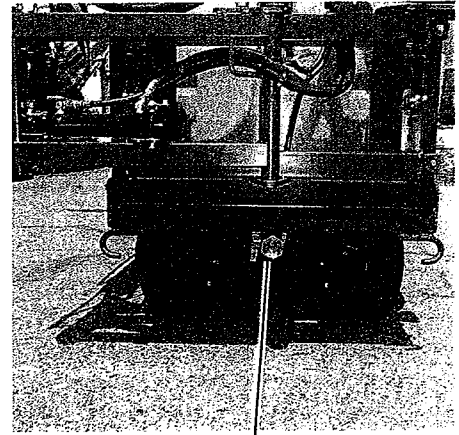
- ①ドレンバルブが閉められていることを確認してから、薬液タンクに薬液を入れます。薬液タンク内で調合する場合は、薬液タンク内に水を所要量の半分ほど入れてから農薬を入れ、残りの水を入れて希釈してください。
- ②薬液タンクキャップをしっかりと締め付けます。
- ③エンジンを始動し、散布圃場へ移動します。

⚠注意

- ・調合が適切でない薬液は、作物を傷めるだけでなく人体にも有害になる恐れがあります。薬液の調合の際は、農薬の使用上の注意をよく読み、正しく希釈してから使用してください。
- ・薬液タンクが満水状態のとき、傾斜地などタンクが傾いた状態になると薬液が薬液タンクキャップのネジ部からこぼれることがありますので注意してください。

重要

- ・本製品付属の薬液タンクキャップは、ブリーザ機能をもった専用品です。タンクキャップを交換する場合は必ず販売店に注文し、専用のタンクキャップに交換してください。



ドレンバルブ

5-5-4) 動噴

◎動噴の吐出圧力設定

- ①下記の事項を確認します。
 - ・各部コックが閉じていること。
 - ・動噴調圧弁の排圧レバーが上がっていること。

～以下はエンジンが動いている状態でおこなってください～

- ②スロットルレバーを『高』にします。
- ③ポンプクラッチレバーを『入』にします。
- ④動噴調圧弁の排圧レバーを下げ、調圧弁の調圧ダイヤルを回し、圧力メモリを見ながら、所定の圧力に設定します。
- ⑤攪拌用コックを開くと薬液タンク内の薬液が攪拌されます。
- ⑥噴口部に接続している吐出コックを開くとノズルから薬液が吐出します。

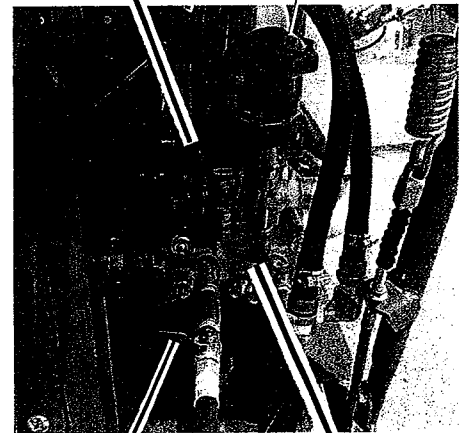
⚠注意

- ・噴口から薬液が吐出されても安全かどうか、まわりの状況をよく確認してから吐出コックを開いてください。
- ・このとき、接続部のパッキンに脱落のないこと、各ネジ部にゆるみがないこと、ホースに亀裂、摩耗、破損のないこと等、各部に異常のないことを確認してください。

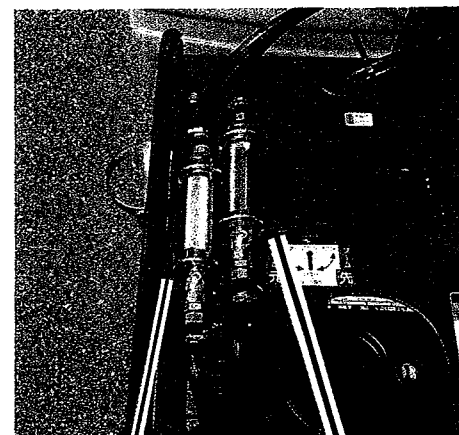
◎動噴の停止

- ①吐出コックを閉じます。
- ②動噴調圧弁の排圧レバーを上げます。
- ③ポンプクラッチレバーを『切』にします。
- ④スロットルレバーを『低』にします。

排圧レバー 調圧ダイヤル



攪拌用コック 吐出元コック



元ブーム用コック 先ブーム用コック

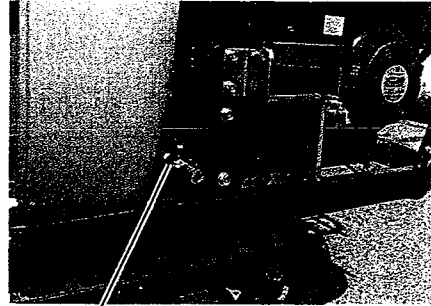
5-5-5) 散布作業

- ①散布開始位置に移動後、いったん走行を停止します。
- ②ブームを散布状態にします。
(「5-4:ブームの操作」及び「5-5:ブームの展開」参照のこと)
- ③変速レバーを前進1速、または後進1速にします。
- ④スロットルレバーを『高』にします。
- ⑤動噴を開始し、コックを開き噴霧状態にします。
- ⑥走行クラッチレバーをゆっくり操作し、走行を開始します。

重要

・うね間の移動時など、散布の不要な場所ではこまめに吐出コックを閉じ、ポンプクラッチレバーを『切』にしてください。

- ⑦薬液散布を中断または終了するときは、下記の操作を行います。
 - ・走行クラッチレバーを『切』にして走行を止めます。
 - ・吐出コックを閉じ、薬液の吐出を止めます。
 - ・動噴調圧弁の排圧レバーを上げます。
 - ・ポンプクラッチレバーを『切』にします。
 - ・スロットルレバーを『低』にします。
 - ・ブームを収納します。



補助コック

※風向きにもよりますが、後進で散布作業を行うと農薬の被ばく量は比較的少なく済みます。
※補助コックは手散布作業やジェットポンプ駆動に利用できます。ホース等を接続してご使用ください。ただし、接続するホースは耐圧が2.5MPa以上のものをご使用ください。

警告

・薬品の吸入や付着による事故を防ぐため、帽子、保護眼鏡、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護衣、長ズボン、ゴム長靴を着用し、皮膚が露出せず危険のない服装で作業をおこなってください。
・ハウス内での使用は人体に悪影響を及ぼすおそれがありますので、よく換気をしてください。

注意

・散布作業開始時は、エンジンの回転が高い状態で走行クラッチレバーを操作することになります。クラッチ操作後直ぐに高速で機体が動き始めますので、周囲の状況をよく確認してから操作するようにしてください。
・作業中にめまい、頭痛を生じまたは気分が少しでも悪くなった場合は直ちに医師の診察を受けてください。
・走行中や薬液散布作業中に何らかの理由により直ちに走行、薬液散布を停止したいときは、非常停止ボタンを押して、エンジンを停止してから走行クラッチレバー、ポンプクラッチレバーを『切』にしてください。急停止の際には、車体の前方や後方が浮き上がる恐れがありますので十分に注意してください。
・水道、河川、池、沼などを汚染しないように、また、人体や散布対象物以外のものにかからないよう風や周囲の状況に充分注意して作業をおこなってください。
・薬液散布作業以外のときは突然の噴霧防止のため左右吐出コックを閉じた状態にしてください。
・作業中に噴口部を清掃または交換する場合は顔面などに薬液がかかる恐れがありますので、動噴を停止し、吐出コックを閉じ、噴口を開放状態にしてから噴口部を取り外しておこなってください。
・各ホースの温度は40℃以下で使用してください。40℃より高くなりますと性能が低下します。
・手散布作業時など、補助コックに接続するホースには無理な曲げ、ねじれ、引っ張り、折れなどを与えないようにしてください。
・ブームを人などにぶつける危険がありますので、移動走行は必ずブームを収納した状態でおこなってください。
・ブームを人などにぶつける危険がありますので、ブームを伸ばした状態での操舵、旋回は、サイドクラッチレバーを軽く引いたり戻したりの繰り返しにより、徐々に行ってください。
・ブームを人などにぶつける危険がありますので、ブームの操作はまわりに人などの障害物がないことを確認してから行ってください。

- 走行速度と薬液散布量の関係は下記の通りです。

走行速度A (km/h)、その時の噴口の全吐出量をB (ℓ/min) とすると、1m走行当たりの薬液散布量V (ℓ/m) は、

$$0.06 \times B \div A = V (\ell/m)$$

となります。

- 例1) 走行速度A : 1.9 km/h (後進1速)
全吐出量B : 33 ℓ/min (15頭口、ポンプ設定圧2.5MPa)

$$V = 0.06 \times 33 \div 1.9 = 1.04 \ell/m$$

- 例2) 走行速度A : 1.9 km/h (後進1速)
全吐出量B : 40 ℓ/min (21頭口、ポンプ設定圧2.5MPa)

$$V = 0.06 \times 40 \div 1.9 = 1.26 \ell/m$$

※走行速度A=1.9km/hにおける散布量目安表

吐出噴口数		15	17	19	21
B : 全吐出量 (ℓ/min)		33	35	37.5	40
V : 1m当薬液散布量 (ℓ/m)		1.04	1.11	1.18	1.26
有効散布幅 (m)		4.4	5.0	5.6	6.2
100m走行時の	散布面積 (㎡)	440	500	560	620
	散布量 (ℓ)	104	111	118	126

5-6 輸送

◎トラックへの積み降ろし

- ①平坦で堅固な場所にトラックを駐車します。
- ②外れ止めのついたアルミブリッジをトラック荷台に外れないように固定します。
- ③クローラとアルミブリッジの方向をまっすぐに定めてから、低速でゆっくり積み降ろしをおこなってください。

転落によるけがの恐れがありますので、下記の事項を守ってください。

- アルミブリッジは800kgf以上の荷重に耐えられる、トラック荷台高さの4倍以上の長さのものを使用してください。
- 必ず薬液タンクを空にしてから積み下ろしを行なってください。
- トラック荷台上では薬液を薬液タンクに充填しないでください。
- 車体の重心位置が上側になるように、後進で上り、前進で下ってください。
- 低速（前進1速、又は後進1速）で走行してください。
- アルミブリッジ上ではサイドクラッチを切らないでください。

⚠警告

- ④トラック荷台に積み込み後、走行クラッチを切り、輸送中転倒しないようロープ掛けをおこなってください。

6 使用後のお手入れと保管

6-1 使用後のお手入れ

①薬液タンク内の薬液を排出し、新たに清水を入れて動噴をまわし、薬液配管（薬液タンク、サククションフィルタ、動噴、ボージンキ、ホース、噴口など）内部を洗浄します。

（サククションフィルタ、ボージンキの清掃については7-2点検、整備方法の『サククションフィルタの清掃』『ボージンキの清掃』を参照してください。）

②凍結防止のため下記の要領で薬液通路内の水をすべて排出します。

- ・動噴の排圧レバーを上げ、全てのコックを開きます。
- ・薬液タンクのドレンバルブを開き、薬液タンク内の水をすべて排出します。
- ・薬液タンク内の水が排出されたら、動噴を15秒程度空運転しポンプ内の水を排出します。
- ・ポンプドレンを緩め、ポンプ内の水を排出します。

③すべての水が排出されましたらコックを閉じます。

④付着した泥、薬液、異物を清水で洗い流し、固く絞った布でふき取ります。

重要

- ・このときエンジン、動噴、Vベルトには清水をかけないでください。



ポンプドレン

⑤走行クラッチ、ポンプクラッチを共に切り、風雨や日光の当たらない平坦なところで保管してください。

注意

- ・動噴を止めても動噴～ホース内に圧力が残っていることがあります。この状態で接続部を外すと薬液が噴き出す恐れがありますので、接続部を外す前に周囲の状況を確認し、吐出コックを閉じてから噴口を吐出状態にして動噴～ホース内の圧力を抜き、取り外してください。
- ・前回使用した薬液がタンク、ホース、噴口などの内部に残っていると薬害をおこす危険性があります。特に除草剤散布に使用した後、一般防除作業に使用する場合は残っている薬液を十分に洗い流してください。
- ・余った薬液及び機械の洗浄水は、河川、水源池、池、沼、下水等に流入して被害を及ぼさないよう、薬害のない方法で処分してください。
- ・保管時は必ず走行クラッチ、ポンプクラッチを共に切り、風雨や直射日光の当たらない平坦なところで保管してください。

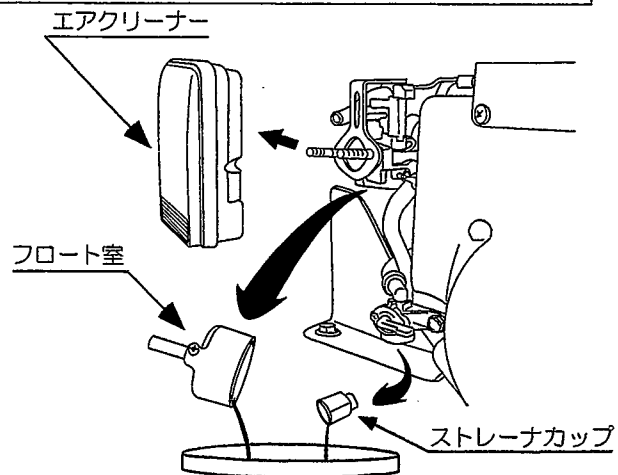
6-2 長期保管

『6-1 使用後のお手入れ』を実施後、下記の事項をおこなってください。

◎エンジンについて

（必ずエンジンを止めた状態で作業してください。）

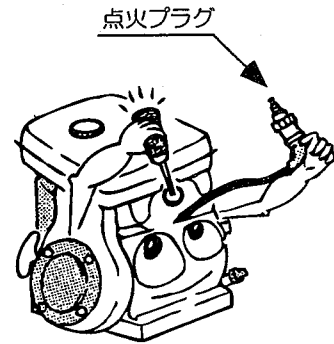
- ①燃料の変質による始動不良などを防止するために、気化器下部のフロート室を外して気化器内の燃料を抜いてください。
フロート室は、エアクリナーを外せば取り外せます。
また、燃料コックからストレーナカップを外し、燃料コックを開いて燃料タンク内の燃料を抜いてください。



危険

- ・火気厳禁です。燃料の取り扱いには充分注意をしてください。

②点火プラグを外して、その取付穴からエンジンオイルを約5cc注入し、リコイルスタータノブを数回引いた後、点火プラグを取り付け、再度リコイルスタータノブをゆっくり引き、重くなったところでリコイルスタータノブを戻してください。エンジン内部への外気（湿気）の進入を防止できます。



◎動噴について
動噴の取扱説明書に従って必要事項をおこないます

7 保守点検

7-1 定期点検

機械の性能維持、寿命増進のために、定期的下表の点検を実施してください。定期点検により不具合が発見された場合には『7-2点検、整備方法』該当項目に沿って直ちに補修などの措置を講じてください。

● その時間毎 ◇ 初回のみ

点検項目		運転時間				
		毎回	25H毎	50H毎	100H毎	200H毎
サイドクラッチ		●				
駐車ブレーキ		●				
走行装置	クローラの損傷	●				
	クローラの張り具合	●				
動力伝達装置	走行クラッチ	●				
	ポンプクラッチ	●				
ミッションオイルの交換				◇	●	
エンジン	エンジンオイルの交換		◇	●		
	点火プラグ			●		
	燃料コック			●		
	エアクリーナ		●			
動噴クランクケースオイルの交換			◇		●	
油圧ポンプオイル量		●				
ポーシンキ		●				
サクションフィルタ		●				
その他	可動部へのグリスの塗布	●				

7-2 点検、整備方法

△注意 点検整備は平坦で堅固な場所に駐車しておこなってください。

【エンジン】

• 燃料の補給

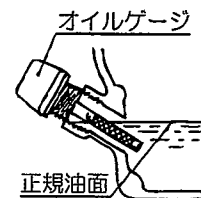
- 燃料は自動車用無鉛ガソリンを使用してください。
- 燃料タンクの容量は6ℓです。

△危険

- 火災の恐れがありますので、燃料補給時は次の項目を必ず守ってください。
 - 燃料はエンジンを止めた状態で補給してください。
 - 燃料補給時は火気に充分注意してください。
 - 燃料補給時は高温部に燃料がかからないように補給してください。
 - 燃料タンクの給油口一杯まで燃料を入れしないでください。
 - 燃料がこぼれたらきれいに拭き取ってください。
 - 燃料補給後、燃料タンクキャップは確実に閉めてください。

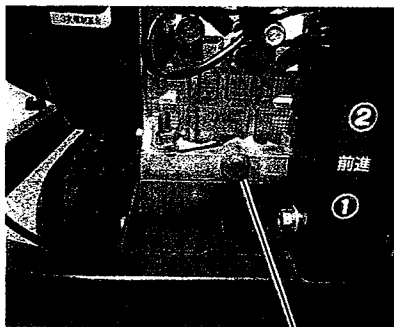
• エンジンオイルの点検

- 毎運転前に必ずオイル量を点検し、正規油面まで補給してください。また、オイル漏れの対策についてはお買い求めの販売店にお問い合わせください。



• エンジンオイルの交換

- ドレンプラグからオイルを抜き取り、新しいオイルと交換してください。このとき、オイルゲージを外しておくとうまく抜けます。
- オイルゲージ、ドレンプラグは車体後方のものをご使用ください。
- オイルはSE級以上の良質のものをご使用ください。
- 容量は1.0ℓです。



ドレンプラグ



オイルゲージ
(車体後方の扉を開くと外し易くなります。)

△警告

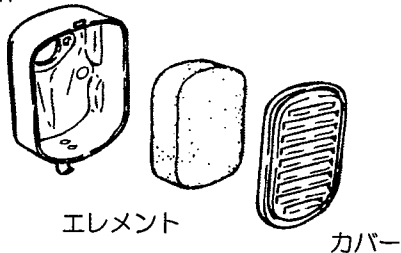
- エンジン停止直後はエンジン及びエンジンオイルが高温になっています。やけどのおそれがありますのでよく冷えたことを確認し、充分注意してください。

・エアクリーナの清掃

- ・エレメントを抜き取り、洗油（白灯油）で洗浄後、の割合の混合油に浸し、片手で固く絞って再び取り付けます。

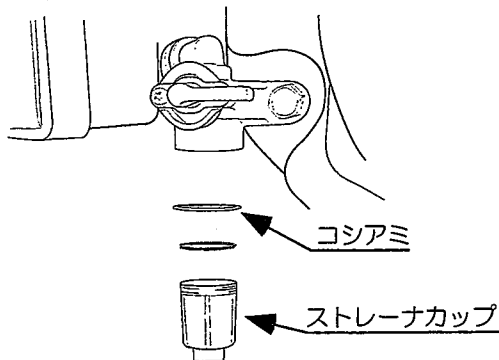
白灯油3：エンジンオイル1

ケース本体



・燃料コックの清掃

- ・燃料コックを閉じ、ストレーナカップを外してストレーナカップ中の異物を取り除き、コシアミに付着している異物も捨て、洗油（白灯油）で洗い、再びしっかりと組み付けます。

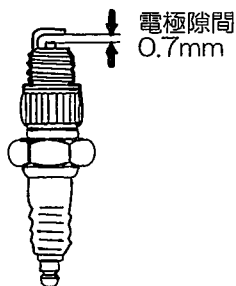


・点火プラグの清掃、調整

- ・電極に付着したカーボンを取り除き、紙ヤスリで磨いて電極隙間を調整します。

⚠警告

- ・エンジン停止直後はエンジン及び点火プラグが高温になっています。やけどのおそれがありますので充分注意してください。



規格：NGK BP5ES

【ミッション】

・ミッションオイルの交換

- ・ミッションオイルの交換、補給についてはお買い求めの販売店にご相談ください。

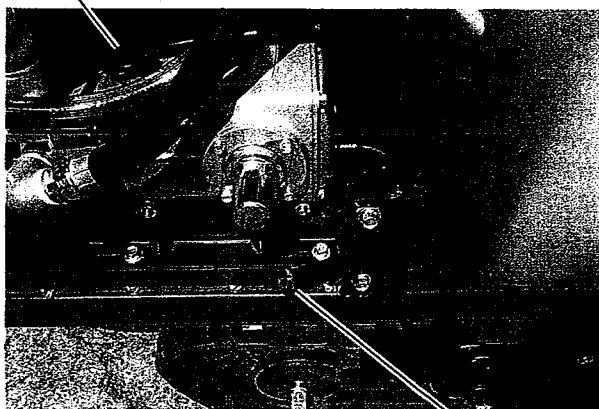
・使用オイル

品名：ギヤオイル
API：GL4以上
SAE：#90
容量：0.6ℓ

【動噴】

- 動噴クランクケースオイルの交換
 - ①オイルが暖かいうちに油入栓と油抜栓を外して油抜栓からオイルを抜き取ります。
 - ②油抜栓をしっかりと締め、油入栓からモービル油（SJ級SAE10W30）を油面計の中央点まで入れます。（油量：1.15ℓ）
 - ③油入栓をしっかりと締めます。
- その他の点検、整備方法につきましては動噴の取扱説明書をご覧ください。

油入栓

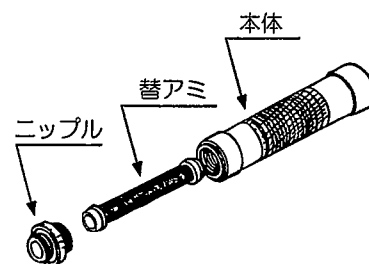


油抜栓

【ボージンキの清掃】

薬液散布作業終了後、下記の要領で必ずボージンキを清掃してください。

- ①ボージンキ～動噴間のホースを配管から外します。
- ②ボージンキを配管から取り外し、ニップル、替アミ、本体を分解します。
- ③替アミを清水で洗浄し、異物を取り除きます。
- ④ニップルに替アミを差し込んでから本体と組み付けて、配管にしっかりと組み付け直します。
- ⑤『①』で外したホースをしっかりと組み付け直します。

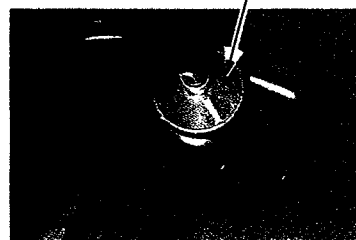


【サクシオンフィルタの清掃】

薬液散布作業終了後、下記の要領で必ずサクシオンフィルタを清掃してください。

- ①サクシオンフィルタを配管から取り外します。
- ②サクシオンフィルタを清水で洗浄し、異物を取り除きます。
- ③サクシオンフィルタを配管にしっかりと組み付け直します。

サクシオンフィルタ



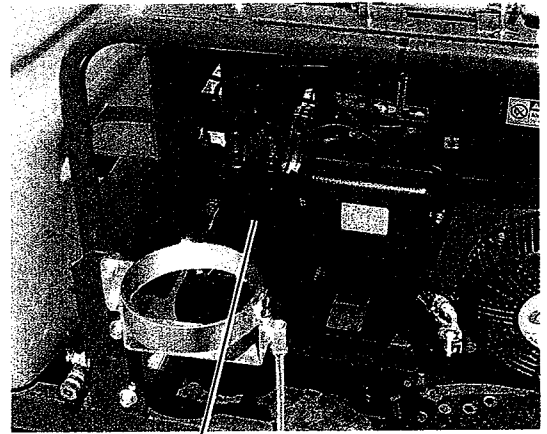
【油圧ポンプ】

下記の要領で油圧ポンプオイルを点検してください。

- ①ブームを収納状態にして、エンジンを止めます。
- ②注油口のオイルキャップを外し、注油口から油面までの高さを測ります。
- ③上記高さが5cmに満たない場合は、上記高さが5cm程度になるように下記オイルを入れます。

使用オイル：油圧作動油#46

- ④注油口にオイルキャップをしっかりと締め込みます。



オイルキャップ

⚠注意

- ・エンジン停止直後は油圧ポンプ、及び油圧ポンプオイルが高温になっています。やけどのおそれがありますので充分注意してください。

【Vベルトの交換】

Vベルトが損傷したときは、新品との交換をお買い求めの販売店に依頼してください。
Vベルトはバンドの下記サイズ相当品を使用してください。

使用箇所	サイズ (本数)
エンジン～ミッション	W800SB35 (1本)
エンジン～動噴	SB-45 (2本)
エンジン～油圧ポンプ	SB-42 (1本)

8

故障と対策

現象	原因	対策
サイドクラッチレバーを握っても旋回しない	ワイヤの調整不良	※
駐車ブレーキの効きが悪い	ワイヤの調整不良	※
	ブレーキシュー等の摩耗	※
クローラが外れる	張り調整不良	※
走行クラッチを入れても走行しない	テンション調整不良	※
	Vベルトの損傷	※
走行クラッチを切っても走行する	テンション調整不良	※
	Vベルト押さえの調整不良	※
ポンプクラッチを入れても動噴がまわらない	テンション調整不良	※
	Vベルトの損傷	※
ポンプクラッチを切っても動噴が止まらない	テンション調整不良	※
	Vベルト押さえの調整不良	※
エンジンがかからない	燃料不足	7-2点検、整備方法の『燃料の補給』参照のこと
	燃料の変質	6-2長期保管の『エンジンについて』参照のこと
	始動操作の間違い	5-2エンジン始動・停止の『エンジン始動』参照のこと
	点火プラグの不良	7-2点検、整備方法の『エンジン始動、調整』参照のこと
エンジンに力がない	エアクリーナにゴミが詰まっている	7-2点検、整備方法の『エアクリーナの清掃』参照のこと
	エンジンオイルの不足	7-2点検、整備方法の『エンジンオイルの点検』参照のこと
	その他	※
散布作業時、噴口から十分な霧が出ない	操作の間違い	5-5『薬液散布』参照のこと
	噴口の目詰まり	噴口を清掃する
	薬液タンクに薬液がない	薬液タンクに薬液を補充する
	サクシオンフィルタの目詰まり	7-2点検、整備方法の『サクシオンフィルタの清掃』参照のこと
	ポージンキの目詰まり	7-2点検、整備方法の『ポージンキの清掃』参照のこと
ブーム油圧操作に関する不具合	動きが悪い	5-4『ブームの操作』参照のこと
	その他	※

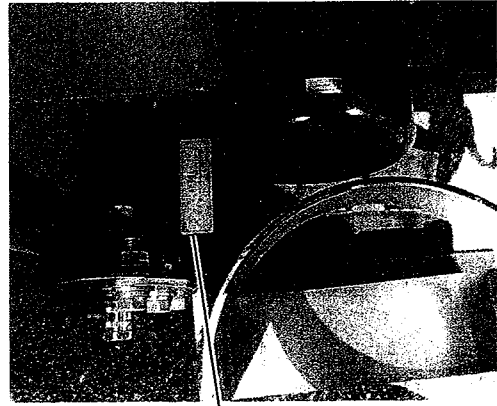
※印の不具合対策に関してはお買い求めの販売店にご相談ください。
 その他、不明な点は販売店にご相談ください。

9

アフターサービス

機械の調子が悪いとき、『8故障と対策』にしたがって処置をしても不具合が改善されない場合、下記の点を明確にしてお買い求めの販売店にご連絡ください。

- 型式名 (WP-501S)
- 製造番号
- 購入されてからどれくらい使用されましたか？ (約□□□時間使用)
- 不具合の発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。



製造番号ラベル
(油圧ポンプ近傍)

<メモ>

